

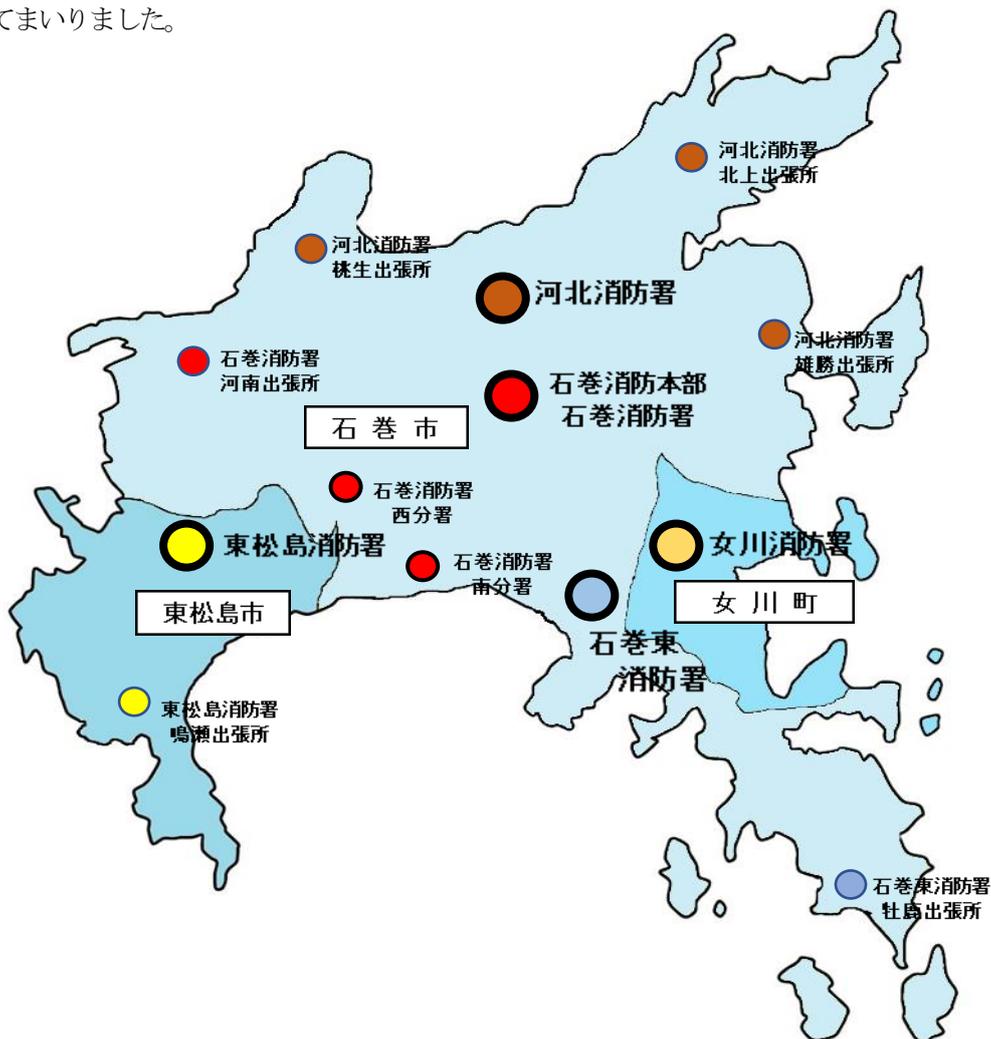
第1編 石巻広域消防の概要

■ 沿革の概要

石巻地区広域行政事務組合は、宮城県の北東部に位置し、仙台市から約50km北東にある石巻市を中心に、東松島市及び女川町の2市1町を管轄しています。

組合の沿革は、昭和46年に石巻市と周辺9町【桃生郡、牡鹿郡】を組織市町として、消防事務や衛生事務を共同処理する一部事務組合として発足し、平成17年の組織市町の合併を経て現在の2市1町体制に至ります。

石巻広域消防は、昭和46年6月に政令第170号により政令指定されました。昭和47年には消防無線施設の運用を開始しました。組合消防発足時の昭和46年4月に1本部2署3分署2出張所で職員数123名から運用を開始し、10年後の昭和57年4月には4署体制となり、派出所は出張所に格上げされました。運用開始から20年後の平成2年には1本部4署1分署8出張所で職員数253名、さらに30年後の平成12年には1本部4署1分署9出張所で職員数321名、そして50年を迎えた令和3年には1本部5署2分署6出張所で職員数357名と組織の拡充と合わせて、施設及び装備の面でも充実を図りながら、圏域住民の信頼と期待を寄せられるまでに発展してまいりました。



■ 施設整備の概要

石巻消防署管内



消防本部・石巻消防署



石巻消防署西分署



石巻消防署南分署



石巻消防署河南出張所

石巻東消防署管内



石巻東消防署



石巻東消防署牡鹿出張所

河北消防署管内



河北消防署



河北消防署雄勝出張所



河北消防署桃生出張所



河北消防署北上出張所

東松島消防署管内



東松島消防署



東松島消防署鳴瀬出張所

女川消防署



■ 消防署所の概要

(令和3年4月1日現在)

署 所 名		建 設 年 度 所 在 地	敷地面積 (㎡)	庁舎延面積 (㎡)	救急隊 の有無	職 員 配置数 (人)
①	消 防 本 部	石巻市大橋一丁目1番地1	9,665.17	3,811.75		54
	石巻消防署				有	38
②	南 分 署	石巻市双葉町6番27号	1,798.77	858.17	有	25
③	西 分 署	石巻市向陽町五丁目12番1号	2,417.19	890.62	有	23
④	河南出張所	石巻市前谷地字黒沢前5番地1	1,710.01	701.50	有	17
⑤	石巻東消防署	石巻市さくら町一丁目7番地	5,325.47	1,098.50	有	34
⑥	牡鹿出張所	石巻市鮎川浜字清崎山6番地2	2,711.43	593.00	有	17
⑦	河北消防署	石巻市成田字小塚裏畑17番地1	930.40	727.24	有	24
⑧	雄勝出張所	石巻市雄勝町雄勝字下雄勝12番地40	1,101.11	441.22	有	11
⑨	桃生出張所	石巻市桃生町城内字嶺前10番地	3,364.73	810.00	有	17
⑩	北上出張所	石巻市北上町十三浜字小田93番地4	1,332.32	398.08	有	11
⑪	東松島消防署	東松島市小松字下浮足100番地5	2,049.00	1,568.78	有	34
⑫	鳴瀬出張所	東松島市野蒜ヶ丘三丁目28番地4	2,142.54	519.10	有	17
⑬	女川消防署	女川町女川浜字大原602番地5	3,726.17	1,219.58	有	25

■ 消防車両現有状況

(令和3年4月1日現在)

ポンプ車	水槽付ポンプ車	化学車	はしご車	救急車	
17	5	3	1	15	
救助工作車	大型水槽車	指揮車	広報連絡車	その他	合 計
3	1	6	14	12	77

■ 歴代理事長（管理者）及び歴代消防長

管 理 者

順 位	氏 名	就 任 期 間
初 代	石巻市長 千 葉 堅 彌	昭 44 . 4 . 1 ~ 昭 47 . 10 . 15
2	〃 青 木 和 夫	昭 47 . 11 . 19 ~ 昭 59 . 11 . 18
3	〃 平 塚 真 治 郎	昭 59 . 11 . 19 ~ 平 4 . 4 . 13
4	〃 菅 原 康 平	平 4 . 5 . 25 ~ 平 14 . 12 . 9
5	〃 土 井 喜 美 夫	平 15 . 1 . 27 ~ 平 15 . 3 . 31

理 事 長

順 位	氏 名	就 任 期 間
初 代	石巻市長 土 井 喜 美 夫	平 15 . 4 . 1 ~ 平 21 . 4 . 28
2	石巻市長 亀 山 紘	平 21 . 4 . 29 ~ 令 3 . 4 . 28
3	石巻市長 齋 藤 正 美	令 3 . 4 . 29 ~ 現 在

消 防 長

順 位	氏 名	就 任 期 間
初 代	消防正監 芳 賀 小 次 郎	昭 46 . 4 . 1 ~ 昭 48 . 11 . 1
2	〃 遠 藤 稔	昭 48 . 11 . 2 ~ 昭 52 . 9 . 30
3	〃 太 田 廉 平	昭 52 . 10 . 1 ~ 昭 56 . 3 . 31
4	〃 小 野 静 雄	昭 56 . 4 . 1 ~ 昭 58 . 3 . 31
5	〃 阿 部 信 男	昭 58 . 4 . 1 ~ 昭 62 . 3 . 31
6	〃 笈 原 正	昭 62 . 4 . 1 ~ 平 2 . 3 . 31
7	〃 小 嶋 輝 男	平 2 . 4 . 1 ~ 平 4 . 3 . 31
8	〃 市 川 登	平 4 . 4 . 1 ~ 平 5 . 3 . 31
9	〃 及 川 英 之 助	平 5 . 4 . 1 ~ 平 7 . 3 . 31
10	〃 菊 地 哲 雄	平 7 . 4 . 1 ~ 平 9 . 3 . 31
11	〃 宇 佐 美 哲 雄	平 9 . 4 . 1 ~ 平 12 . 3 . 31
12	〃 神 戸 弘	平 12 . 4 . 1 ~ 平 14 . 3 . 31
13	〃 加 賀 見 勝 敏	平 14 . 4 . 1 ~ 平 16 . 3 . 31
14	〃 千 葉 幸 喜	平 16 . 4 . 1 ~ 平 18 . 3 . 31
15	〃 千 葉 茂	平 18 . 4 . 1 ~ 平 20 . 3 . 31
16	〃 石 母 田 信 雄	平 20 . 4 . 1 ~ 平 21 . 3 . 31
17	〃 土 井 正 洋	平 21 . 4 . 1 ~ 平 22 . 3 . 31
18	〃 太 田 明	平 22 . 4 . 1 ~ 平 23 . 3 . 31
19	〃 星 幸 三 郎	平 23 . 4 . 1 ~ 平 25 . 3 . 31
20	〃 土 井 兼 一	平 25 . 4 . 1 ~ 平 28 . 3 . 31
21	〃 阿 部 栄 一	平 28 . 4 . 1 ~ 平 29 . 3 . 31
22	〃 今 宮 文 生	平 29 . 4 . 1 ~ 平 31 . 3 . 31
23	〃 鈴 木 芳 一	平 31 . 4 . 1 ~ 令 2 . 3 . 31
24	〃 水 沼 克 之	令 2 . 4 . 1 ~ 令 3 . 3 . 31
25	〃 浜 野 淳	令 3 . 4 . 1 ~ 現 在

■ 石巻広域組織市町（2市1町）の紹介

● 石巻市

石巻市は、北上川の河口に位置し、宮城県北東部地域を代表する風光明媚な都市です。伊達藩の統治下には、水運交通の拠点に位置する「奥州最大の米の集積港」として、全国的に知られた交易都市でした。

明治時代からは、金華山沖漁場を背景に漁業のまちとして栄え、現在も、金華山沖は世界三大漁場の一つに数えられ、かつお・いわし・さばなどの水産資源の宝庫となっています。また、昭和39年に新産業都市の指定を受けてからは、石巻工業港が開港するなど、工業都市としても発展を遂げてきました。

平成17年4月1日には石巻地域（石巻市、河北町、河南町、桃生町、北上町、雄勝町、牡鹿町）1市6町が合併し、新・石巻市として新たなスタートを切りました。



● 東松島市



東松島市は宮城県東部に位置し、仙台市から北東に約30kmの距離にあり、東は石巻市、西に松島町、北に美里町に接し、南側は太平洋に面しています。市域面積は101.31km²で、気候は年間平均気温や降水量からみても、東北地方としては比較的温暖で風雨が少ない地域にあります。市域の東部は、肥沃な田園が広がる平坦な地形、中央部には四方を一望できる桜の名所「滝山」を中心

とする丘陵地、西部は、一級河川鳴瀬川・吉田川が太平洋に注ぐとともに、南西部には風光明媚な日本三景「特別名勝松島」（奥松島）を有し、変化に富んだ美しい自然景観を有しています。

平成17年4月1日には、矢本町と鳴瀬町が合併し、新たに東松島市が発足しました。

● 女川町

宮城県の東、牡鹿半島基部に位置し、東日本大震災により被災した三陸地域に創設された「三陸復興国立公園」地域に指定されています。奥州三大霊場の一つである『霊島 金華山』は、近年パワースポットとしても人気があり、女川港から定期船が出ています。

北上山地と太平洋が交わる風光明媚なりアス式海岸は天然の良港を形成し、カキやホタテ・ホヤ・銀鮭などの養殖業が盛んで、世界三大漁場の一つである金華山沖漁場が近いことから、魚市場には年間を通じて暖流・寒流の豊富な魚種が数多く水揚げされています。



● 管内人口及び世帯数の推移

管内人口は、昭和58年には最多で24万4千人を超えたこともありましたが、地理的条件等から地震、津波、洪水等の自然災害を受けやすく、東日本大震災の巨大津波により、管内での犠牲者が5千人を超えるなど甚大な被害を受け、東日本大震災発生後、人口は減少傾向にあり、令和3年4月現在の人口は約18万5千人と多い時と比べ6万人あまり減少しています。

世帯数は、東日本大震災後、一旦減少に転じましたが、以降増加傾向にあります。

管内人口及び世帯数の推移

